

山本登朗教授 とくろう 履歴と業績

出生、その後

昭和二四年（一九四九）三月三日、大阪府高槻市にて出生。三人兄弟の長男。父武は鳥根県安来市母里（もり）、母マツエは鳥根県松江市惠曇（えとむ）の出身。どちらも『出雲国風土記』に見える。幼少期はしばしば長く出雲ですごした。

父は製薬会社勤務。高槻市の社宅から兵庫県尼崎市の社宅に移り、戦災で廃墟となった隣の薬品工場跡で遊び回った。昭和三八年（一九六三）、吹田市に移って関大一高前踏切から三軒目の社宅に住み、関大の敷地をわが庭のようにしてすす。ここで定年を迎えるとは夢にも思わなかった。やがて近くの山手町に父が建てた家で結婚まで暮らし、その後は、業平伝説の里でもある、京都市西京区の大原野に居住して現在に至る。

学歴

昭和四二年（一九六七）

三月三十一日 私立高槻高等学校卒業

四月一日 京都大学文学部入学

昭和四七年（一九七二）

三月三十一日 同 卒業

四月一日 京都大学大学院修士課程入学（文学研究

科国語学国文学専攻）

昭和四九年（一九七四）

三月三十一日 同 修了

昭和五〇年（一九七五）

四月一日 京都大学大学院博士課程入学（文学研究

科国語学国文学専攻）

昭和五三年（一九七八）

三月三十一日 同 単位取得

職歴（専任）

昭和五三年（一九七八）

四月一日 光華女子大学講師

昭和五八年（一九八三）

四月一日 同 助教授

平成三年（一九九一）

四月一日 同 教授

平成一二年（二〇〇〇）

四月一日 光華中学校・高等学校校長（兼任）

平成一四年（二〇〇二）

四月一日 関西大学文学部教授

京都光華女子大学名誉教授

平成二〇年（二〇〇八）

四月一日 関西大学教職支援センター長（平成二八年三月まで）

年三月まで）

平成二八年（二〇一六）

三月三十一日 関西大学文学部教授を定年退職

四月一日 同 名誉教授、同 特別契約教授

平成三一年（二〇一九）

三月三十一日 同 特別契約教授退職予定

非常勤講師

昭和六〇年（一九八五）四月～昭和六三年（一九八八）三月

京都教育大学教育学部

昭和六一年（一九八六）四月～昭和六二年（一九八七）三月

梅花女子大学文学部

昭和六三年（一九八八）四月～平成一年（一九八九）三月

京都女子大学文学部

昭和六三年（一九八八）四月～平成二年（一九九〇）三月

奈良女子大学文学部

平成二年（一九九〇）四月～平成四年（一九九二）三月

京都大学文学部

平成三年度（一九九一）（後期集中講義）

愛媛大学法文学部

平成四年度（一九九二）（前期）

大阪女子大学文学部

平成六年（一九九四）四月～平成一三年（二〇〇一）三月
龍谷大学文学部

平成七年（一九九五）四月～平成一二年（二〇〇〇）三月
京都女子大学文学部

平成九年（一九九七）四月～平成一二年（一九九九）三月
京都大学総合人間学部

平成一〇年（一九九八）四月～平成一二年（二〇〇〇）三月
奈良女子大学文学部

平成一二年（二〇〇〇）四月～平成一三年（二〇〇一）三月
京都府立大学文学部

平成一三年（二〇〇一）四月～平成一五年（二〇〇三）三月
京都学園大学人間文化学部

平成一四年（二〇〇二）四月～平成一九年（二〇〇七）三月
京都光華女子大学文学部

平成一七年（二〇〇五）（前期）
大阪大学文学部・文学研究科

平成一九年（二〇〇七）四月～平成二六年（二〇一四）三月
同志社大学大学院

平成一九年（二〇〇七）一二月（集中講義）
（中华民国）国立台湾大学文学部

平成二三年（二〇一〇）九月～平成二三年（二〇一）三月
京都学園大学人間文化学部

平成二六年（二〇一四）四月～平成二九年（二〇一七）三月
龍谷大学大学院

主要業績

《著書 単編著》
平成一三年（二〇〇一）

『伊勢物語論 文体・主題・享受』 単著（笠間書院）
平成二〇年（二〇〇八）

『伊勢物語成立と享受1 伊勢物語 虚構の成立』 単編著
（竹林社）

平成二二年（二〇一〇）
『伊勢物語成立と享受2 伊勢物語 享受の展開』 単編著
（竹林社）

平成二三年（二〇一）
『伊勢物語版本集成』 単編著（竹林舎）

平成二五年（二〇一三）
『日本を愛したドイツ人 フリッツ・ルンプと伊勢物語版本』
単編著（関西大学出版部）

平成二八年(二〇一六)

『絵で読む伊勢物語』 単著(和泉書院)

平成二九年(二〇一七)

『伊勢物語の生成と展開』 単著(笠間書院)

平成三〇年(二〇一八)

『伊勢物語 流転と変転』 単著(平凡社)

《著書 共編著》

平成三年(一九九一)～平成一八年(二〇〇六)

『説話論集』(第一集～第一五集) 池田敬子氏・出雲路修氏・

田村憲治氏・芳賀紀雄氏・森眞理子氏と共編(清文堂出版)

平成一〇年(一九九八)

『日本漢詩人選集・菅原道真』 小島憲之氏と共著(研文出版)

平成一三年(二〇〇一)～平成一四年(二〇〇二)

『鉄心齋文庫古注釈叢刊』第二期(第九卷～第一五卷) 片

桐洋一氏と共編(八木書店)

平成一六年(二〇〇四)

『平安文学研究ハンドブック』 田中登氏と共編著(和泉書院)

平成一六年(二〇〇四)～平成二二年(二〇一〇)

『伊勢物語古注釈大成』(第一卷～第五卷、以下続刊)(笠間

書院)

平成一八年(二〇〇六)

『中宮物語絵巻の研究』若杉準治氏等と共編著(臨川書店)

平成二一年(二〇〇九)

『伊勢物語 創造と変容』 ジョシユア・モストウ氏と共編
著(和泉書院)

平成二六年(二〇一四)

『清水好子論文集』(第一卷～第三卷) 清水婦久子氏・田中

登氏と共編(武蔵野書院)

平成二七年(二〇一五)

『日本古代の「漢」と「和」 嵯峨朝の文学から考える』 北

山田正氏・新間一美氏・滝川幸司氏・三木雅博氏と共編著

(勉誠出版)

《論文 単著》

昭和五二年(一九七七)

『浅間と富士―伊勢物語『東下り』小考―』『国語国文』

四六卷八号

『伊勢物語の『誹諧』―宗祇の注記をめぐって―』『論集』

日本文学・日本語 角川書店

昭和五三年（一九七八）

「経厚講覚怨筆伊勢物語聞書三卷」『国語国文』四七卷一号

昭和五五年（一九八〇）

「周辺の宗祇流―天理図書館蔵伝平田墨梅筆伊勢物語聞書をめぐって―」『光華女子大学・女子短期大学研究紀要』

一八集

昭和五六年（一九八一）

「『折る』と『惜し』―萬葉集三九〇四番歌の解釈をめぐって―」『萬葉』一〇七号

「曼殊院蔵伊勢物語二種」『国語国文』五一卷二号

「虚と実―『伊勢物語童子聞』の旧注批判―」『光華女子大

学研究紀要』二〇集

昭和五八年（一九八三）

「曼殊院蔵伊勢物語聞書三種」『国語国文』五二卷九号

「近衛信尋と伊勢物語―陽明文庫蔵『伊勢物語抄抜書』その

他をめぐって―」『光華女子大学研究紀要』二二集

昭和六二年（一九八七）

「伊勢物語注釈と尚書―三条西家における伊勢物語理解の一面―」『和漢比較文学叢書5・中世文学と漢文学』汲古書

院

昭和六三年（一九八八）

「『かの』―伊勢物語の遠近法―」『国語国文』五七卷九号

平成一年（一九八九）

「橋本公夏の伊勢物語注釈―陽明文庫蔵『志能夫数理』をめぐって―」『光華女子大学研究紀要』二七集

平成二年（一九九〇）

「『竹取の翁』と『みやつこまろ』―竹取物語の冒頭―」『ことばとことのは』七集

平成三年（一九九一）

「二通の遺書―竹取物語における和歌と会話―」『ことばとことのは』八集

平成四年（一九九二）

「生田川伝説の変貌―大和物語百四十七段の再検討―」『国語国文』六一卷七号

平成五年（一九九三）

「『かいまみ』の意味―伊勢物語六十三段をめぐって―」『ことばとことのは』一〇集

平成六年（一九九四）

「唱和の位置―落窪物語の構造と和歌―」『光華日本文学』

二号

「義と心―『両度聞書』の方法―」『講座 平安文学論究第

一〇集』風間書房

平成七年（一九九五）

「伊勢物語と題詠―惟喬親王章段の世界―」福井貞助氏編
風間書房『伊勢物語―諸相と新見―』

「作られた主人公像―伊勢物語九十二段と『伊勢物語新釈』

―』『光華日本文学』三号（小泉道教授退職記念号）

「うたて匂ひの袖にとまれる―『新撰万葉集』と『古今和歌

集』―』『磔』一九九五年二月号

平成八年（一九九六）

「ふたつの『芥川』―室町中期伊勢物語注釈における『作り

物語』の概念―』『国語国文』六五卷四号（安田章教授退

官記念中世文学・語学論集（上）

「見られることと見ること―『目離る』覚え書―』『磔』

一九九六年一〇月号

「行平から『なま翁』へ―伊勢物語百十四段の成立―』『光

華女子大学研究紀要』三四集

平成九年（一九九七）

「謫居と閑居―大宰府の菅原道真―』『磔』一九九七年八月

号

平成一〇年（一九九八）

「和歌の解釈と物語―伊勢物語の方法―』『和歌 解釈のバラ

ダイム』鈴木淳氏・柏木由夫氏編 笠間書院

「堯恵と伊勢物語―鉄心斎文庫蔵『堯恵加注承久三年本校合
伊勢物語』をめぐる―』『光華女子大学研究紀要』三六

集

平成一一年（一九九九）

「親と子―宇津保物語の方法―』『森重先生喜寿記念・こと

ばとことのは』和泉書院

「『妹があらを田』考―源順『碁盤歌』をめぐる―補説―』

『磔』一九九九年四月号

「『人しれぬ』と『心やむ』―伊勢物語五段の表現と意味―』

『論叢伊勢物語』本文と表現』王朝物語研究会編 新典社

「東下りの果て―伊勢物語十三段その他をめぐる―』『講

座平安文学論究 第十四集』風間書房

平成一二年（二〇〇〇）

「宇治に吹く風―『源氏物語』の自然描写と和歌―』『磔』

二〇〇〇年二月号

「『神代のことと思ひ出づらめ』―在原業平の和歌と神話―』

『磔』二〇〇〇年二月号

平成一三年(二〇〇一)

『千尋あるかげ』—伊勢物語七十九段をめぐる—『磔』

二〇〇一年一〇月号

『いちはやきみやび』—伊勢物語の主人公と語り手—『王

朝文学の本質と変容』片桐洋一氏編 和泉書院

平成一四年(二〇〇二)

『家の風』—菅原道真の表現—『磔』二〇〇二年八月号

『伊勢物語の日本神話—在原業平と『神代』—』『論叢伊勢

物語2 歴史との往還』王朝物語研究会編 新典社

『伊勢物語と『準拠』』『むらさき』三九輯

平成一五年(二〇〇三)

『伊勢物語の成熟期—六十五段とその周辺—』『国語と国文

学』八〇巻四号

平成一六年(二〇〇四)

『伊勢物語の高官の女—二十三段第三部の二つの問題—』『国

文学』(関西大学) 八八号

『三歳の離乳—うっほ物語の表現—』『磔』二〇〇四年四月

号

『古今集の時代—『神代』と和歌—』『国文学』四九巻一二

号 学燈社

平成一七年(二〇〇五)

『仙查説話の意味—伊勢物語八十二段をめぐる—』『磔』

二〇〇五年二月号

『かれいひ』の意味—伊勢物語九段・八橋の場面をめぐる

て—』『磔』二〇〇五年一二月号

平成一八年(二〇〇六)

『歌さへぞひなびたりける—』『伊勢物語』の「みちのくに」

『国文学解釈と鑑賞』七一巻五号 至文堂

『女歌』の源泉—平安朝の女性像と『遊仙窟』—』『磔』

二〇〇六年一〇月号

平成一九年(二〇〇七)

『春別』と『春の別れ』—伊勢物語第七十七段の問題点—』

『国文学』(関西大学) 九一号

『かいまみ』の背景—仙女譚から『伊勢物語』へ—』『磔』

二〇〇七年八月号

『中国の色好み—韓寿説話と伊勢物語』『源氏物語へ源氏物

語から 中古文学研究24の証言』永井和子氏編 笠間書院

平成二〇年(二〇〇八)

『王朝物語と宮廷秘話—』『伊勢物語』第六十五段成立の意味

『王朝文学と東アジアの宮廷文学』仁平道明氏編 竹林舎

「芥川の虚と実―『伊勢物語』第六段の創造―」『磔』

二〇〇八年六月号

平成二二年(二〇〇九)

「伊勢物語『初冠』考」『平安文学史論考』秋山虔氏編 武蔵

野書院

平成二二年(二〇一〇)

「『遊仙窟』文化圏」構想は可能か―「かいまみ」と「女歌」

―「和漢比較文学」四四号

「沈黙と死 初冠本『伊勢物語』の結末」『国文学解釈と鑑賞』

七五巻三号ぎょうせい

「朧月夜と伊勢物語」『源氏物語の展望・第七輯』森一郎氏・

岩佐美代子氏・坂本共展氏編 三弥井書店

「『伊勢物語』の享受と絵画―第二十四段の場合―」『王朝文

学と物語絵』高橋亨氏編 竹林舎

平成二三年(二〇一一)

「地下水脈の探求―『伊勢物語』の絵巻・絵本と絵入り版本―」

『物語絵・歌仙絵を考える―変容の軌跡』久下裕利氏編 武

蔵野書院

「類聚歌合巻第八斎院部の改編と祿子内親王物語歌合」展示

図録『近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承』国文

学研究資料館

「古注」前史―平安末期の伊勢物語享受―」『国語と国文学』

八八巻一一号

平成二四年(二〇一一)

「平安朝物語における時間の階層と語り手の多様な位置」芸

術と脳の対話』国際高等研究所

「平安末期における「けこのうつはもの」―伊勢物語の高

安の女」補遺―」『国文学』(関西大学) 九六号

「フリッツ・ルンプの『伊勢物語』版本研究」『EUと日本文学』

藪田貫氏・浜本隆志氏編 関西大学出版部

平成二五年(二〇一二)

「平安朝物語における時間の階層と語り手の多様な位置」芸

術と脳―絵画と文学、時間と空間の脳科学―」近藤寿人氏

編 大阪大学出版会

「伊勢物語と毛詩―段末注記という方法―」『国語国文』

八二巻八号

平成二六年(二〇一四)

「散文と和歌の接続―いわゆる「画賛的和歌」をめぐる―」

『むらさき』五一輯

平成二八年(二〇一六)

『伊勢物語』と「色好み」 『伊勢物語の新世界』妹尾好信氏・渡部泰宏氏・久下裕利氏編 武蔵野書院

「名」にちなむ詩歌―『文華秀麗集』「燕」詩群の背景― 『国文学』(関西大学) 一〇〇号

「源氏物語への回路―伊勢物語第六段の再検討から―」 『京都語文』(佛教大学) 二二三号

平成二九年(二〇一七)

「笑ふことにやありけむ」―伊勢物語第八十七段の草子地について― 『国文学』(関西大学) 一〇一号

「和習」再考 『日本語文化の「転化」』長谷部剛氏編 関西大学東西学術研究所叢書5号 ユニウス

「古今和歌集の「誹諧」と「俳諧」」 『国語国文』八六卷一〇号

平成三〇年(二〇一八)

「複合体としての『昆沙門堂本古今集注』―その性格と成立―」 『中世古今和歌集注釈の世界』昆沙門堂本古今集注をひもとく 人間文化研究機構 国文学研究資料館編 勉誠出版

《分担執筆》

昭和五九年(一九八四)

『王朝和歌の世界―自然感情と美意識』片桐洋一氏編 世界思想社 第一三章「王朝和歌と花 ―『心』の視点から―」を執筆

昭和六一年(一九八六)

『古今集の世界―伝授と享受―』横井金男氏・新井栄蔵氏編 世界思想社 第五章「堯惠流古今説の方法と展開―室町後期」を執筆

平成三年(一九九二)

『田氏家集注 卷之上』小島憲之氏監修 和泉書院 漢詩六首の注を執筆

平成四年(一九九二)

『田氏家集注 卷之中』小島憲之氏監修 和泉書院 漢詩七首の注を執筆

平成五年(一九九三)

『女と愛と文学 日本文学の中の女性像』小泉道氏・三村晃功氏編 世界思想社 「伊勢物語の悪女」の項を執筆
『説話論集 第三集』説話と説話文学の会編 清文堂出版 田村憲治氏等五名と共編 「注釈としての説話―伊勢物語・古今

集古注の人物世界―」を執筆

平成六年（一九九四）

『田氏家集注卷之下』小島憲之氏監修 和泉書院 漢詩七首の注を執筆

『歌枕を学ぶ人のために』片桐洋一氏編 世界思想社「万葉集の地名表現 歌枕前史」の項を執筆

平成八年（一九九六）

『恋のかたち 日本文学の恋愛像』光華女子大学日本文学科 編 和泉書院「右近の馬場の恋―伊勢物語の主人公像―」の項を執筆

平成一二年（一九九九）

『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店「荇澤新二」「伊勢物語（寂身本）」等七項目を執筆

『説話論集 第九集』説話と説話文学の会編 清文堂出版 田村憲治氏等五名と共編「伊勢物語における散文と和歌―連接形式の意味―」を執筆

平成一二年（二〇〇〇）

『伊勢と源氏 物語本文の受容』古典講演シリーズ5 国文学研究資料館編 臨川書店「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」を執筆

平成一三年（二〇〇一）

『日本文学と美術』光華女子大学日本文学科編 和泉書院「絵で見る『伊勢物語』―近世絵入り版本の世界―」を執筆。

『歌論歌学集成 第一巻』三弥井書店「二言抄」を担当

平成一七年（二〇〇五）

『日本古典偽書叢刊 第一巻』現代思潮新社「伊勢物語見聞書抄」を担当

『新撰万葉集注釈 卷上（一）』新撰万葉集研究会編 和泉書院 和歌・漢詩四組の注を執筆

『見果てぬ夢―平安京を生きた巨人たち』ウエッジ「色好みの貴公子・在原業平」を執筆

平成一八年（二〇〇六）

『説話論集 第九集』説話と説話文学の会編 清文堂出版 田村憲治氏等五名と共編「謡曲『井筒』の背景 樺本の業平伝説―」を執筆

『新撰万葉集注釈 卷上（二）』新撰万葉集研究会編 和泉書院 和歌・漢詩六組の注を執筆

『展開する伊勢物語』国文学研究資料館編「古注釈とその周縁―伊勢物語の内と外―」を執筆

平成一九年（二〇〇七）

『伊勢物語絵巻絵本大成』羽衣国際大学日本文化研究所編
角川学芸出版

平成二五年（二〇一三）

『宗達伊勢物語図色紙』羽衣国際大学日本文化研究所伊勢物語絵巻研究会編 思文閣出版

『伊勢物語のかがやき―鉄心斎文庫の世界―』（国文学研究資料館特別展示リーフレット）国文学研究資料館

《解題》

昭和五三年（一九七八）

『経厚講伊勢物語聞書』京都大学国語国文資料叢書 京都大学国語国文研究室編 臨川書店

昭和五六年（一九八一）

『曾禰好忠集』京都大学国語国文資料叢書 京都大学国語国文研究室編 臨川書店

平成一年（一九八九）

『伊勢物語山口記 他』鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊三八
木書店

『宗印談伊勢物語聞書』鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊四

八木書店

平成二年（一九九〇）

『伊勢物語集注』鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊七・八
木書店

平成一三年（二〇〇一）

『伊勢物語永閑聞書』鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊一〇
八木書店

平成一四年（二〇〇二）

『伊勢物語新釈 他』鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊一三八
木書店

（翻刻）『鉄心斎文庫蔵『伊勢物語新釈弁』』光華日本文学

一〇号

平成一九年（二〇〇七）

『伊勢物語』（伝良経筆）大東急記念文庫善本叢刊・中古中
世篇・物語一 汲古書院

平成二〇年（二〇〇八）

『冷泉家時雨亭叢書 第八〇卷』『伊勢物語山口記』『伊勢物語抄』を担当 冷泉家時雨亭文庫編 朝日新聞社

平成二九年（二〇一七）

『冷泉家時雨亭叢書 拾遺和歌集・時絵小箱三代集本』冷泉

《論説・その他》

平成五年（一九九三）

「室町写本の世界」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第五集』

鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

平成六年（一九九四）

「賄賂と和歌と漢詩」『新日本古典文学大系月報五一』

「『伊勢物語』の写本」『伊勢物語』の注釈『伊勢物語の世

界』（伊勢物語の世界）展・図録）五島美術館

「近世写本の世界」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第七集』

鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

平成七年（一九九五）

「伊勢物語で遊ぶ―江戸時代の伊勢物語享受―」『鉄心斎文

庫所蔵伊勢物語図録 第八集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

「近世の出版文化と伊勢物語注釈」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物

語図録 第九集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

平成八年（一九九六）

「近世写本的一面」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第一〇集』

鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

「伊勢物語注釈書の世界（Ⅰ）」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図
録 第一集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

平成九年（一九九七）

「古写本と伝承筆者」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第二
集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

「伊勢物語のころ―「かいまみ」の意味するもの―」『文

藝論叢』四九号（大谷大学文藝学会）

「伊勢物語注釈書の世界（Ⅱ）」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図

録 第一三集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

平成一〇年（一九九八）

「注入り伊勢物語の世界」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録

第一四集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

「伊勢物語注釈書の世界（Ⅲ）」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図

録 第一五集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

平成一一年（一九九九）

「伊勢物語版本の世界」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第

一六集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

「稲賀敬二氏著『中務』を読む」『磔』一九九九年一月号

「流浪する貴族たち」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第一七

集』鉄心斎文庫伊勢物語語文華館

「竹取物語・伊勢物語名言集」『別冊国文学・五二 日本の古
典名言必携』學燈社

平成一二年(二〇〇〇)

「伝説の中の伊勢物語」『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録第

一八集』鉄心斎文庫伊勢物語文華館

平成一三年(二〇〇一)

(書評)「後藤康文『伊勢物語誤写誤読考』」『文学』四九卷

五号 岩波書店

平成一五年(二〇〇三)

「『手に取り持ちて』—古代和歌と触覚—」『和歌文学大系・

月報一八』明治書院

「吉田山の業平塚」『礫』二〇〇三年六月号

「大原野」『国文学 解釈と鑑賞 別冊 源氏物語の鑑賞と基礎

知識三〇 行幸・藤袴』至文堂

平成一七年(二〇〇五)

「学界時評—中古」『国文学』五〇巻四号 学燈社

「学界時評・中古」『国文学』五〇巻一〇号 学燈社

平成一八年(二〇〇六)

「学界時評・中古」『国文学』五一巻四号 学燈社

「学界時評・中古」『国文学』五一巻一〇号 学燈社

「小島憲之—国風暗黒時代の文学から古今集へ—」『戦後和歌
研究者列伝』田中登氏・松村雄二氏責任編集 笠間書院

平成一九年(二〇〇七)

「学界時評・中古」『国文学』五二巻四号 学燈社

「奈良業平幻想—井筒と人麻呂」『ひととき』一七巻五号(株

ジェイアール東海エージェンシー)

「学界時評・中古」『国文学』五二巻一〇号 学燈社

平成二〇年(二〇〇八)

「学界時評・中古」『国文学』五三巻四号 学燈社

「新聞—美著「源氏物語の結末について—長恨歌と李夫人と

—」『源氏物語と紫式部 研究の軌跡 研究史篇』紫式部

顕彰会編 角川学芸出版

「学界時評・中古」『国文学』五三巻一二号 学燈社

平成二二年(二〇〇九)

「学界時評・中古」『国文学』五四巻四号 学燈社

「シンポジウム『源氏物語の絵と注釈』司会の記」『中古文学』

八四号

平成二三年(二〇一〇)

「謡曲「井筒」を生み出したもの 講演概要と補記」『能と

狂言』九号 能楽学会

平成二四年（二〇一三）

「古注釈を読む―『伊勢物語闕疑抄』の場合」『古典籍研究
ガイダンス 王朝文学をよむために』国文学研究資料館編
笠間書院

平成二五年（二〇一三）

「学界時評・中古」『アナホリッシユ国文学』二号 響文社
「学界時評・中古」『アナホリッシユ国文学』四号 響文社

平成二六年（二〇一四）

「学界時評・中古」『アナホリッシユ国文学』六号 響文社
（シンポジウム総括「シンポジウム 平安文学における〈漢
の受容―その日本化の様相―」『中古文学』第百年記念号

《学会発表》

昭和五五年（一九八〇）

和歌文学会関西例会（於龍谷大学）「花を折るということ」

平成三年（一九九一）

和歌文学会全国大会（於大阪女子大学）「伊勢物語の和歌と
散文」

平成五年（一九九二）

和歌文学会全国大会（於弘前大学）「義と心―『二度聞書』

の方法―」

平成六年（一九九三）

関西平安文学会例会（於関西大学）「伊勢物語と題詠―惟喬
親王章段の世界―」

平成二二年（二〇〇〇）

関西平安文学会例会（於佛教大学四条センター）「いちはや
きみやび―伊勢物語の主人公と語り手―」

平成一五年（二〇〇三）

中古文学会秋季大会（於同志社大学）「語りの内と外―伊勢
物語の「世人」―」

平成一八年（二〇〇六）

和漢比較文学会台湾特別研究発表会（於国立台湾大学）「女
歌」の淵源―王朝文学の女 性像と中国文学―」

平成一九年（二〇〇七）

国際伊勢物語ワークショップ（於カナダ、ブリテイッシュ・
コロンビア大学）「『かいまみ』の背景―仙女譚から『伊勢
物語』へ―」

平成二〇年（二〇〇八）

和漢比較文学会台湾特別研究発表会（於国立台湾大学）「伊
勢物語」初冠考」

平成二二年 (二〇〇九)

中古文学会全国大会 (於国士館大学) シンポジウム「源氏物語の絵と注釈」司会

中古文学会関西西部会 (於神戸女子大学) 「『伊勢物語』初冠考」
和漢比較文学会大会 (於國學院大學) シンポジウム「唐代伝奇と平安朝物語」(パネリストとして) 「遊仙窟」文化圏」
構想は可能か―「かいまみ」と「女歌」―を報告し、討議に参加)

平成二二年 (二〇一〇)

AAS・Annual Meeting (於アメリカ、フィラデルフィア) パネル「Exegetical Circumscriptions Medieval and Early Modern Approaches to Tales of Ise」(ディスカッションとして参加)
能楽学会・世阿弥忌セミナー講演「謡曲「井筒」を生み出したもの」

平成二三年 (二〇一〇)

中古文学会関西西部会 (於帝塚山大学) 「古注」を生み出したもの ―平安末期の伊勢物語享受―」
EASJ 第一三回国際会議 (於エストニア、タリン) パネル「Readers・Transformation of Ise monogatari」 「The

Supplementary Notes in Ise monogatari : Hints from The Book of Songs」

東西学術研究所創立80周年記念国際シンポジウム (於関西大学) 「『伊勢物語』の虚と実―『毛詩』をてがかりに―」

平成二四年 (二〇一一)

和漢比較文学会例会 (西部) (於京都大学) 「伊勢物語と毛詩―第六段の段末注記をめぐって―」

EJRS2012年度大会 (於ベルリン国立図書館) 「フリッツ・ルンプの『伊勢物語』版本研究」

平成二六年 (二〇一四)

EJIS 第一四回国際会議 (於スロベニア、リュブリャナ) パネル「伊勢物語の絵画による享受とそれによる物語の変貌」(パネルリーダーおよびディスカッサント)

平成二七年 (二〇一五)

和漢比較文学会第8回特別例会 (於中国・西安 西北大学) 招待講演「嵯峨朝の文学について」

中古文学会秋季大会 (於県立広島大学) 「伊勢物語と万葉歌」

平成二八年 (二〇一六)

中古文学会関西西部会 (於武庫川女子大学) 「古今和歌集の「俳諧」と「俳諧」」

東アジア日本研究者協議会 第一回国際学術大会（於韓国・

仁川 ソンドコンベンシア）パネル発表「東アジア文化圏

における日本文化の形成―平安時代の仏教儀礼・漢詩・和

歌をめぐって」（代表および司会）

平成二九年（二〇一七）

EAS第一五回国際会議（於ポルトガル、リスボン）パネ

ル「連歌師と中世古典学の創造」（デイスカッサント）

和歌文学会関西例会（於大阪市立大学）「毘沙門堂本古今集

注」の成立」

平成三〇年（二〇一八）

シンポジウム「林原美術館の資料と岡山池田家の文事」（於

岡山県立図書館）（共催 関西大学、林原美術館）企画お

よびパネラー「池田綱政の文事―『伊勢物語』屏風断簡、

艶書合五種その他―」

関西大学EUワークシヨップ（於ベルギー、ルーバン大学）

第一〇回記念講演「物語文学と「かいまみ」―日本の恋の

原像―」

中古文学会関西部会（於関西大学）「鎌倉時代の伊勢物語享

受―鉄心斎文庫本伝二条為氏筆伊勢物語の注記が語るも